

令和6年度の学校規模適正化の取組について

令和6年度は、昨年度策定した「釜石市立小・中学校における学校規模の適正化・適正配置基本方針」を基に、学校規模の適正化・適正配置の対象となり得る学校を訪問し、各校長及びPTA役員等との意見交換を進めております。

今後は、さらに学校、PTA、地域との意見交換を重ね、頂いた意見を参考としながら、計画策定に向け、推進計画策定委員会において検討・協議を進めてまいります。

今年度実施した各校長及びPTAとの意見交換内容について

No.	学校名	意見交換実施日	
		校 長	PTA 役員等 ※参加者数
(1)	白山小学校	令和6年5月27日(月)	令和6年7月18日(木)、※約20人
(2)	栗林小学校	〃 5月29日(水)	〃 6月20日(木)、※9人
(3)	釜石小学校	〃 5月31日(金)	〃 6月10日(月)、※3人
(4)	唐丹小・中学校	〃 5月31日(金)	〃 6月26日(水)、※10人
(5)	双葉小学校	〃 7月4日(木)	未実施
(6)	釜石東中学校	〃 8月1日(木)	未実施
(7)	甲子中学校	〃 8月6日(火)	未実施

(1) 校長からの主な意見等

・小規模校のデメリットについて

- 少ない人数のままだと、昔から知っている子どもたち同士の関係性だけになる。その人間関係の中でなあなあで過ごして成長するのはいかなものかと考えている。
- 小人数の学校だと、子ども同士で発生したトラブルが解決できないことがある。それが小人数のデメリットだと考える。メンバーの入れ替わりがなく同じメンバーのまま。
- 学校がなくなると地域は寂しいのはその通りかも知れないが、子どもたちのことを考えると、小人数ではできない、どうしようもないことがあるので、仕方ないことだとも思う。
- 小規模の学校での学年制は、子供が狭い世界を作ること助長するだけ。
- 部活のような先輩後輩の関係を経験しないまま成長すると、一人で好きなことだけやるような子が出来上がる。そういった経験をする機会が必要。先生が全て教える、指導するのではなく、先輩が見本を見せて、後輩を育てることも必要。

・保護者の声、反応について

- 保護者の世代では統合への反対意見はないようだ。
- 保護者は、学校統合を自分事として捉えていない様子が感じられる。
- 保護者は、現状の生徒数ではできることもできないからという理由で統合に賛成している様子。

- 保護者はどれほど子どもの数が減っていくのか具体的には理解していない。
- 親は子どもたちのことを考え、少人数は良くないと考えているので統合も仕方ないと思っている。

・地域の声、反応について

- 各地区それぞれに地域性があると思うが、それぞれの主張にとらわれてしまうと「子どもたちのためを思っただけの統合」という視点から外れた議論になる。子どもたちのことを第一に考えて、同意を得て進めていってほしい。
- 地域から学校がなくなるとなれば、地域の感情はどうなるかが気になる。
- 地域の力が強い。地域から学校をなくすと大変なことになると思う。
- 一関市の統合の例では、PTAは子供の人数を考えて統合に最初から賛成していたが、年配の方々は地域から学校がなくなることに対して反対していた。しかし、年配の方々も、「今の人たちが統合に賛成ならば仕方ない」と考えるようになっていった。地域の人から「仕方ないね」と言ってもらえるようになればよい。
- 地域の人たちは「学校がなくなると子どもの声が聞こえなくなって寂しい」と言って学校を残したいと考える。

・統合後の学校施設について

- 「ことばの教室」をどうしていくかは大きな問題だと思う。
- 学校統合が進めば、特別支援学級の教室を確保できるかといった問題も出てくる。
- 統合してどの校舎を使うのかという問題もある。
- 統合すると特別支援が必要な子も集まり学級も増える。統合すると教室が足りなくなる可能性がある。教室数には余裕を持っていないと対応できない。

・小中一貫教育について

- 小中一貫教育については、導入して何になるのか疑問に思う。導入した学校で何か成果を残しているのか。
- 小規模の学校による一貫教育はあまり機能していないと思う。平成 27、28 年ころに一貫教育の導入に関する調査があったが、その後何も動きが無い。良い結果が出ていないのではないか。逆に、一貫校をやめる所が増えているようだ。メリットがあまりないためではないか。(つくば市の例)
- 小中一貫校の導入は慎重に判断する必要がある。ただ、小中学校をくっつけばいいというものではない。やるなら、一貫校として何を指すかを明確にして取り組まなければならない。先生たちの意識が変わらなければ、結果として一貫校にした意味が無いもので終わる。

・その他

- 郷土芸能の継承が課題だと考えている。

- 学校を統合するときは、統合前にお互いに交流をする必要がある。
- 統合を考える際、通学手段を考えなければならないが、中学生であれば多少バスに乗る時間や歩く距離が長くても問題ないが、小学生はそうはいかない。小学校はある程度少人数となってしまうと、学校を残すことになっても仕方ないというところはあると思う。
- 統合したとき、学校運営協議会の委員はどうするか。学校がある地域から離れたところに住む人が委員になる可能性がある。そもそも、学区が「地域」と呼べるものではないか。
- 今後、計画策定から閉校、統合への準備に関すること等、長期間に渡り取り組むことになるため、全体のスケジュール感を示してもらえると学校としても進めやすい。

(2) PTA からの主な意見等

- 今住んでいる住所に近い学校に通わなければならないのか。
- 驚いた。具体的な数字を見たことが無い。こんなに減るとは思っていなかった。
- 市全体の子ども数は減っているが、特別支援学級に通う子は逆に増えているとのこと。ケアが必要な子が学校統合で一つの学校に集まったら対応が大変になると思うので、祥雲支援学校との連携も必要になると思う。
- 支援が必要な子は通学も課題。一人でバスに乗れる子であるかどうか。もし、保護者が送迎するなら、統合後の学校が遠くなれば負担が増える。
- 統合したくない、という結論になれば統合しないこともあるのか。
- 地域の、学校を残したいという気持ちもわかるが、少人数の小学校から大人数の中学校に急に上がるのは、子どもたちにはあまり良いことではないと思う。
- 地域の圧がすごい。絶対反対する人がいるがうまく統合に話を持って行ければよい。
- 地域の方は、以前から学校統合についてはそれぞれ色々な思いを持ってきたらしい。ただ、時代の流れも変わってきているので、学校統合は必要になってくると思う。統合のタイミングは皆さんで話し合って納得して決めていったらよいと思う。
- (児童数の減少見込みを知り) おそろしい。
- 個人的には統廃合を進めてほしいと思う。通学方法は公共交通機関を使うことになるかもしれないが、そこは市でケアしてほしい。子どもがいっぱいいるクラスのほうがよい。
- 児童数が減るとPTA活動も難しくなると思う。存在自体が危うくなるかもしれない。
- 団体競技は人数がいないとできない。できないと子どもたちの夢を奪ってしまうことになる。
- 部活は単独では団体競技ができない状況。少人数では厳しい。